

古河歴史見聞録

干支のはなし

干支は十干十二支の略称で、60年の周期で循環します。これが還暦という語の由来なのですが、生まれた年と60歳の時の干支の組み合わせは同じということになります。今回はそんな干支にまつわる話です。

まずは干支の起源ですが、これが何と、少なくとも紀元前14世紀くらいまではさかのぼることができようで、中国商(殷)の時代の甲骨文に出てきます。例えば「丁卯卜。大貞、今日啓。」というように。これは「丁卯に卜す。大が貞う、今日は啓んかと。」と読み、丁卯の日に「大」という天帝に卜事を問いかける職掌の人物が、今日の天候を卜したという意です。干支という「年」というイメージが定着していますが、それとともに「日にち」にもあるのです。例えば今月(二月)一日は辛丑に該当します。

た。こうした名の始原は定かではないのですが、一説には、祖先祭祀をつかさどる輪番を示す符号(循環序数詞)であり、それが十家の通称となり、やがて十干に転用されたのだと。つまり、殷王室の祭祀の習俗が発点だとしています。次に十二支ですが、これも定説はないようです。天空の月や星の運行に関わる符号で、それが後に干支に吸収されたのだと。月には満ち欠けがあり、星は時季によつてその位置が変化します。こうした自然の事象(天文学)と深い関わりがあるようです。

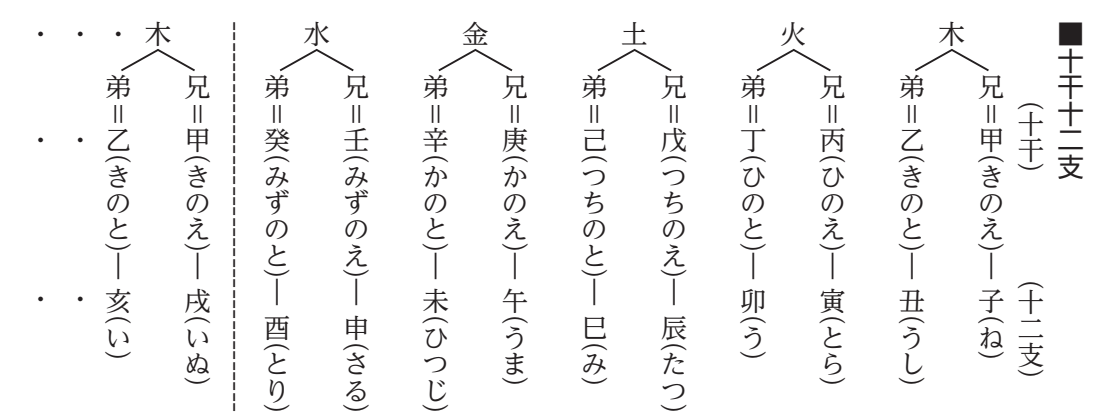
ところで干支はなぜ「え」と読むのでしょうか。不思議ですよ。今年の干支は「乙巳」ですが、和訓では「きのとみ」、昨年の干支「甲辰」は「きのえたつ」、この和訓の傍点部にご注目ください。干支がいつの頃からか中国の五行思想と結び付きます。万物は5つの要素からなるというもので、その要素が「木・火・土・金・水」。それぞれの要素には、兄と弟がいて、そこに干支が

配されるのです。文章では分かりづらいと思いますが、下に図示しました。甲は木の兄(きのえ)であり、乙は木の弟(きのと)で、丙は火の兄(ひのえ)、丁は火の弟(ひのと)……。この兄(え)と弟(と)が「え」と読むゆえんなのです。ちなみに十二支に動物名を配当するようになったのは、一般の人々が理解し、利用しやすくするためののだそうです。その始期は不明ながら、後漢時代の思想書『論衡』(1世紀後半)にはすでに記されています。

干支の知識は殷の王室など支配階級から一般に流布し、現在でもなお使用されています。実に3千年超の壮大な歴史を有する稀有な暦法なのです。

さて、干支といえば小学生古文単語道展。毎年、干支は課題文字の一つになっています。現在、篆刻美術館と三和資料館で開催中ですので、ぜひ、お越しください。

古河街角美術館学芸員 白井公宏



【児童/芸術】 おやさい妖精さん大図鑑 ぽん吉 作・絵

野菜が好きになる！ ハクサイヌ、デグレープフルーチュ、シイタチ…。野菜や果物、キノコ、海藻などから生まれたかわいいキャラクター「おやさい妖精さん」の全てが分かる大図鑑。
出版社…Gakken

図書館の本棚から



【絵本】 だれだとおもう？ コンコン、ばあ〜！ キャティ・ウーリー 作 グラシャ・オリコ 絵

今日はハロウィン。おばけたちがお菓子をもって、家のドアの前までやってきたよ。ドアのむこうにいるのは、だれかな？ ノックしてドアを開けてみよう！ しかけ絵本。
出版社…岩崎書店



【一般/エッセイ】 ゆっぺのヒミツ 室井滋 著

老後の教訓、空白恐怖症、懐かしのあの電車…。年を重ねたからこそ味わえる日々の楽しみをつづった、室井滋のエッセイ集。全103編を収録する。『女性セブン』『夕刊フジ』連載を再構成、加筆修正して単行本化。
出版社…小学館

【一般/小説】 鑑定 山田宗樹 著

精神科医の葛西は、市長選候補者に対する殺人未遂および放火の実行犯・犬崎の精神鑑定を担当していた。葛西が、犯行を淡々と語る犬崎の精神状態に違和感を抱く中、全国各地で不可解な動機による事件が起こりはじめ…。
出版社…角川春樹事務所

もうひとつの空 Another sky



休日はサイクリングを楽しんでいます。古河公方公園は桜もきれいでオススメです。

Name アンドリユー ラゾさん
From アメリカ合衆国
Age 37歳
Job 外国語指導助手(ALT)

My memories in KOGA



約2年前、外国語指導助手として英語指導をするために来日しました。生徒たちが、新たに学んだことを英語で話してくれることがとてもうれしく、やりがいを感じます。今後も、英語に興味を持ってもらえるような指導をしたいです。